

札幌市環境プラザ運営協議会 平成27年度第2回実施概要【確定版】

- 1 日時 平成27年11月27日（金）午後7時～午後9時
- 2 会場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室1・2
- 3 出席者
 - (1) 委員：内山委員、岡崎委員、鎌田委員、川見委員、今委員、小林委員、成田委員、宮森委員、田縁委員
 - (2) 札幌市：環境局環境計画課 環境教育担当係長、計画係担当
 - (3) 事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 市民参画課長、管理係長、環境係長、指導員、サポートスタッフ
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 札幌市環境局のあいさつ
 - (3) 委員自己紹介
 - (4) 報告 平成27年度 上半期事業報告
 - (5) 議事「次年度に向けてどのようなことが必要か」
 - (6) 閉会

5 報告・議事概要

<報告について>事務局より 平成27年度上半期事業の報告を行った。

- ア 環境情報の収集・提供業務
- イ 環境保全活動、交流の支援と推進業務（環境プラザこどもエコクラブ等）
- ウ 環境教育・学習の推進業務（児童・生徒への学習機会の提供、教師向け事業等）
- エ 普及啓発企画業務（野あそびようちえん、環境プラザであそぼ！等）
- オ 札幌市環境プラザ運営協議会運営業務
- カ その他の業務

委員からの質問とその回答

- ・環境プラザが持っている貸出物品の利用状況を伺いたい。
環境教材貸出34件（内学校関係9件、PTA関係1件）
- ・環境プラザの5機能（「環境情報の収集・提供」「環境保全活動、交流の支援と推進」「環境教育・学習事業実施」「環境保全型技術の学習と普及について」「環境保全に関する啓発」）について改めて説明してほしい。
札幌市の環境教育基本方針に基づき、環境教育を進める取り組みの4本の柱（「人材の育成」「情報の共有・活用」「プログラムの作成」「機会づくり・場づくり」）を実現する機能としてこの5機能の業務体系がある。
（札幌市環境局環境計画課所属の田縁委員から、札幌市の担当者の立場から説明があった）
- ・札幌市の学校教育では、「環境保全」は「未来を見据えた視点からの学習」と説明している。環境保全が学習という意味がわからないので説明してほしい
環境問題を現状での出来事として捉えるだけでなく、そこから自分たちはどういうしていったらいいのかという行動化も含め、環境保全に係る内容を、総合的な学習の時間の展開例として教育課程編成の手引きの中に盛り込もうと検討している。
（札幌市教育委員会 指導主事的小林委員より説明があった）

- ・環境プラザ展示コーナーに環境団体が出展する事業「環境プラザであそぼ！」は参加団体を広く募集したものか？

チラシや広報さっぽろ、ホームページで広く一般に募集を行い、11月に募集が埋まり締め切った。

- ・SNSの利用について、現在行っているブログとはどう棲み分けするのか？

SNS導入については、対象ごとに広報手段を考え、フェイスブック活用を検討している。

- ・環境教育リーダー派遣は今年度すぐに申し込みが定員になったが、来年度の申し込みについてはどう考えているのか？

環境教育リーダー派遣については、環境局と各区の動向を踏まえ検討したい。

<議事> 次の内容について委員よりご意見をいただいた。

環境プラザでは多くの事業を行っているが、その中で環境保全について主体的に考え活動する人が育っていく仕組みについてご意見をいただきたい。また、これまで継続してきた事業についてもご意見をいただきたい。

○人が育つ仕組みについて

- ・札幌市の環境白書を見ても環境プラザの名称が「主な環境教育・学習拠点施設」にあり、今回の説明で人材教育の場として活用していくという理解が深まった。
- ・世代が進みながら、環境に関する活動をし、学んでいくことによって、環境に関わる人材が持続的・継続的に育つことになる。それを満遍なく広げるよりは、ある程度中心となる人たちに担ってもらい、そこから地域に広げていく、NPOや企業等で活動を率先する人を育てていくというイメージではないか。
- ・子どもが中学生や高校生になったとき、将来を見据え広がりを見せていく人が増えていくような環境プラザのあり方は大きいと思う。札幌市の拠点施設として小学校だけではなく、中学校・高校ともつながりがあり、さらに地域への広がりが見えてくるといいと思った。

○環境教育について

- ・環境教育に関しては教育を施す側と施される側というだけの考え方ではもうだめなのだと思う。環境教育を施している側にも、教育を受けた子どもたちからレスポンスがあり、それによってプログラムの内容が高まってよりよいものができるというメリットがあり、質が向上していくと思う。
- ・学校教育においては必ず発達段階で考える。縦の軸で個人が育ち、横の軸で活動している団体や企業とマッチングさせていくことになる。「育つ」ということは「つなぐ」とほぼイコールかもしれないと気付いた。
- ・「つなぐ」というポイントが出たが、ESD的な考え方につながると感じた。あとは生涯学習なのだろうということも感じた。
- ・環境調査をしている企業は環境教育を担うことができる人材がそろっていると思うので、そのような企業とも連携が図れると何かできることがあると思う。

○効果測定について

- ・プログラムを実施したことに対してどのような効果があったかだけでなく、参加した団体もどのようなことを得たのか、どれだけレベルアップできたのかということも効果測定になると思う。
- ・効果測定についてはまずは自己評価だと思うが、内部でどのように評価したのか分かるような資料作りをお願いしたい。(目的に向けて実施したことについて、来場者は何が分かったのか、どういう行動変容をしようと思ったのか)

○学生サポーターについて

- ・現在は環境プラザの中でのボランティア的なサポートをしているが、今後はさまざまな団体に派遣することもできるといいと思う。環境団体も若いボランティアを募集しているところがとても多い。そのようなところと一緒に活動すると、団体との協力も可能になると思う。
- ・学生側にもさまざまなニーズがあるので、今回登録した学生たちがどのような思いで来ているのか、ぜひ話を伺ってほしい。
- ・学生サポーターの活動の中に、学生と企業を「つなぐ」という意味で、道内企業のCSRの活動を学ぶ機会があるといいと思う。

○その他

- ・札幌市は、都心部開発において熱と電気のネットワークの構築による環境に優しいまちづくりを目指すビジョンを掲げている。札幌市が進める都市作り指針は、環境教育、エネルギー教育ともマッチすると思うので、これらを題材にしていくのも良いのではないかと思う。
- ・「定員になったのでお断りしました」という話が散見しており、せっかく環境プラザの活動に関心を持ってもらっても機会損失となり、環境プラザの発展性やミッションが失われると思う。
- ・SNSの使用について、ブログは日々の記録で日誌的な要素であるのに対し、フェイスブックは基本的にコミュニティ形成による情報共有の要素がある。メディア戦略として慎重に進めた方がいいと思う。広報さっぽろをうまく使っている部分があるので、それを見据えてメディア戦略、広報戦略を考えてほしい。